方城

第五卷　第七號

発行所　方城公民館
　　方城村図書館
編集発行人　荒木良和
印刷所　冷牟田印刷合資会社
　　八幡市折尾町国道筋

受胎調節講習會の反響

毎日新聞にこんな事が書いてあった「日本でもっとも多いのは人であり最も少いのは人である。貧乏人の子沢山と云ふが日本の一番深刻な問題は何んと云っても人口過剰である。ところが人口でなく人物と云ふことになるとこれまたあまりに少い云々」

本村でもこのことが讀へるのではあるまいか。面積と資源の開発には限度があり乍ら、此処で生活する人は年々級数的に増加の一途を辿つて居る。試みに昨年の実績を見るに出生六二九人・死亡一八〇人・差引純増加は四四九人で総人口に対し二・八%の繁殖率である。

此の外増加の基礎となる婚姻が二二三組、離婚が三二組、差引一八一組と云ふ盛況ぶりである。

一方是等の人口を完全に抱擁し完全に消化し、何等生活に不安がなく充分身に教養を持つ全人教育の機会が与へられるだけの施設と資源開発の見透がつくであろうか。

農村には表面化した失業者は居ないであろうが、潜在失業者と農家の零細化は必至の現状である。農家の二・三男対策に就いてはもつと真剣に考慮さるべきであらう。

公民館は世論を反映し郷土の最も大きな課題の一つとして人口問題を執り上げ、過日藤田田川保健所長一行を迎へて受胎調節の理論と実際について実地指導会を主催したことは、最も時宜に即した催しであつたと云へ様ふ。

由来公民館は最も少い人物をより多く育成し明朗な地域環境を建設する事は勿論である。

本村でも一番深刻な問題は人口過剰であることは村民各自が潜在的に意識して居る問題だつたと思はれる。講習の当日は相憎く強風雨の悪天候であつたにも拘わらず、あれ程多数の聴衆が集ろうとは全く予期しなかつた。中には夫婦揃つて熱心に受講する幾組かのほゝえましい風景さえ見受けられた事である。

本講習会は村民の最も機微にふれた催であつたと思われるが、其の成果は各人の教養と自覚に俟ち最も多い人と最も少い人物との調和を計り、以て住み良い平和な郷土建設に邁進せられん事を希望して擱筆する。

肥料木　アカシヤ、モリシマ（タンニンアカシヤ）

一、性　状

豆科植物で葉はネムノキに似ているが小さい。豆科植物で、痩地でもよく生長し、樹皮にはタンニンを多量に含有する。（一般に云ふ「アカシヤ」とは性状、利用価値も違ふ）

二、用　途

①タンニン資材

樹皮には約三〇%のタンニン分を含有する。中等林地で伐期一〇年としても一町歩当り生皮約四十五㌧（乾皮にして約一〇㌧）の収穫がある。乾皮㌧当（政府払下価格二五・九〇〇円）を内輪に見積つて二〇・〇〇〇円としても、四〇〇・〇〇〇円の粗収入がある。

現在国内取引は乾皮、貫当七五円（運賃別）で無制限に買受している。

現在、年間約六・〇〇〇㌧の乾皮を輸入しており、今後年間約一〇・〇〇〇㌧の増産が叫ばれてゐる。

②薪　炭　材

生長が早いわりに材質が堅く、木炭にしても品質普通で、シイ炭よりも良質である。中等林地での材積は僅か六年生林で一町歩当り約三六〇石で、一般雑木林平均収穫表に依る雑木林一六年生で一七二石に比して、その蓄積は驚く程大きい。

③パルプ資材

木質部はパルプ原料となり、収量・品質ともに良く、漂白もよいといわれ原木一立方米（約三・六石）で未晒パルプ約三〇〇瓩（八〇貫）が出来る。

三、適　地

寒さの酷しい処・風衝地や湿地・強酸性の土地を除けば大低のところにはよく生育する。痩地でもよく生育するが、特別の痩地には植付のときに一本当過石一〇匁、加里五匁程度を施せば効果著しい。強酸性の土地には一本当石灰一〇匁程度宛を施せば肥料効果が低下せず有効。窒素肥料は特別の場合の外施す必要なく、施用すると伸び過ぎ、風に対する抵抗が弱まる。

四、植付、苗の取扱ひ方

植栽時期は三月に入つてからでよい。苗木は活着をよくする為幹を五―六寸にて切断しているが、普通地でも一年に三尺―七尺位伸長生長する。すぎ、ひのき等よりも活着が悪いので、植付に当つては特に注意しなければならない。

1、寒風に根をさらさないこと

2、根を日光に直接当てない

3、苗木は着いたら一日も早く植付ける等によつて乾燥を防ぎ活着をよくする。

植付本数は一町当三・〇〇〇―四・五〇〇本（五尺―六尺植）が適当で、植孔は直径二―三尺位の大きいものとして、特に痩地は深く耕し、少し深植する。

五、手　入

一年目だけは下刈の要がある。時期は五月下旬位、時期が遅れると生長を阻害され手間も多くかゝる著しく生長の遅れたものは翌年の四・五月頃、硫安五匁程度施すとよく生長を促進する。

六、參　考

郡内既植地と本数

赤池町、明治鉱業ボタ山　三・〇〇〇本（一七年春植）

津野村　一・五〇〇本（〃　）

方城村　一・七〇〇本（〃　）

農業會館農藝部行事

経済　山本

本年度会館行事の一端として五月及六月に実施いたしました事を報告いたします。

一、昭和二十六年産麦類増産計画の一環として出品田二十四点に対し麦立毛品評会を五月二十八日普及事務所技師来村、農業委員立会のもとに盛大に挙行し、其の結果左記の成績を収めたのであります。

記

一等一席　吉門第一　村田善敏
小麦　農林六一号　一等二席　見六　芦馬虎雄　裸　青裸　二等一席　迫　稲富信義　小麦　農林　六一号
同二席　中泉　朝部虎一　裸　青裸　同三席　野添　木村清三郎　裸　赤神力　三等　野地　永野治敏　小麦　農林　六一号　三等　上弁城　渡信吉　小麦　農林　六一号　三等　新門下　鈴木菊松　裸　赤神力　三等　野添　木村大吉　裸　赤神力　三等　古門　井上八郎　裸　赤神力

二、次に本年度苗代品評会につき経過を報告いたします。

先般（五月七日）畑見六高津順氏宅に於て、三潴郡千代島先生を招待し、改良苗代実地講習会を開催、本村の稲作増産に一段の迫車をかけ、これにより本年度の苗代品評会を六月十一日出品田二十三点に対し、審査を挙行いたしたのであります。

其の結果成績は左記の通り

【一等一席】　古門白髪　白石藤吉
【同一席】　見六　芳野重雄　【二等一席】　上弁城　永末英貫　【同二席】　迫　香月光義　【同三席】　上弁城　渡信吉　【三等】　古門白髪　白石七太郎　【三等】　野添　木村七次郎　【三等】　後谷　鉄谷宇宙治　【三等】　小原　太田五万吉　【三等】　丸山　原田徳蔵

尚審査報告並に表彰授与式は七月の農事組合長会終了後、盛大に挙行する予定でありますので、一般希望者の列席を歓迎いたします。

第三回定例村會報告

第三回定例村会は六月十四日開会時あたかも麦秋につき近頃稀なスピード審議にて午前九時倉石議長開会を宣し午後九時まで実に十二時間の超精勤にて左記五ツの案件を可決した

尚病気中の中村利夫議員を除き全員出席す。

議案第十四號　昭和二十七年度方城村歳入出追加豫算案

内訳

款	目	金額	説明
土木費	耕地関係土木	二・三九七・二五〇円	岩屋水路外五ヶ所
教育費	弁城小学校建築費	二・八〇〇・〇〇〇	職員室、特別室、教室一棟新築
〃	公民館費	一六二・五〇〇	映写機購入費五〇二・五〇〇円の追加
衛生費	火葬場建設費	一・〇〇〇・〇〇〇	
統計調査費	住民登録費	二二七・五〇〇	七月一日住民登録費
其の他		二・〇〇五・六三二	
合計		八・五九二・八八	
累計予算		二六・三七九・二九二	

議案第十五號　昭和二十七年度方城村國民健康保險歳入出豫算案　可決

今回追加額　八二・〇〇八円

議案第十六號　方城村國民健康保險運營協議會委員選任の件

委員構成は議会代表　二名
被保険者代表　二名
医師代表　一名
欠員中医師代表一名欠員中の被保険者代表一名　松島政夫氏　選任可決

議案第十七號　郡有財産處分案

田川市外十三ヶ町村所有英彥山郡有林の立木、方城村持分五分六厘の売却する件
但し売却代金は村基本財産として蓄積する事を附帯決議し可決

議案第十八號　村有財産處分案

大字伊方字能念寺桑野功氏所有家屋を中学運動場建設用地として土地家屋を買収せるを以て家屋不用に付公売に附する事の件可決

弁城小学校建築特別委員議長に一任指名選任す

永野久雄　中山政教　中村平八郎
稲富青吉　宮崎角治　白石次郎作

ひとりごと

葛原生

一、平和

第二次世界大戦前夜の様な緊迫した空気がひし〳〵と感じられる。どうしても大戦は避けられないものだろうか。

防衛だとか侵略だとか言葉は違うが原始時代のなぐり殺し合いの延長ではないか。

「現実が」「世界情勢」がそれを許さないと言はれるかも知れないが「現実」が「世界情勢」がそれを許さない様にし向けていくのは結局人間ではないか。〃時の勢〃に乗じない様願つて止まない。

二、客觀情勢

「客観情勢の推移」に即応するため再軍備・破防法制定が大きく国民の間にクローズアップされてきた。「客観情勢の推移」といとも簡単な理由によつて——。

私達は一体何を考へ、国民として何をなせば良いか。

全くめまぐるしい時代になつた。新憲法発布以来その内容が私達の生活にしつくり溶け込んで来ない間に又改正の声もちら〳〵。

三、逆コース

つい最近追放解除になられた且つての指導者がその第一声に「良い意味の逆コースは当然」と言う様な意味のことを述べられたことを記憶してゐる。

前向きのつまづきざうな考へ方も困りものだが、それかと言つて独善的な逆コースは辿らん様に願います。

七月の農事

稲　**◎中耕除草**＝田植後一〇日頃に廻転除草機で、除草を兼ねて中耕を行う。其の後は雑草の生える都度除草をする。七月下旬以降は廻転除草機の使用はさしひかえるがよい。除草は七月末迄に終り八月の上旬には出来る限り田の中へ入らぬこと。

○灌排水＝田植後活着迄はやや深水とし、以後田干し迄は常に浅水灌水とする。

○田干し＝八月以降、田の中に入り稲の根を踏み切ることを防ぐと同時に、土壌を乾燥させ有効肥料成分を増加させるために田干しを行う

田干しは山間部で八月の五日頃、平坦部で八月の九日頃迄に終る様に田の水を排し、田の中に入つて足跡の深くつかぬ程度に土壌を乾燥させる。

○追肥＝追肥の肥料の種類や時期や量は、土質・土壌の肥痩・元肥の種類量・施肥法等によつて一定しないが、基準を示せば次の通りである。（前月号の元肥に対して）

分ケツ肥＝七月十八日—二十五日頃硫安二—三貫。

穂肥＝八月十三日頃（出穂前二十五日）硫安一—二貫、加里一貫

施肥法—水を少くして撒布（撒布し易い様に、砂や土を混合してもよい）し、二—三日落水しないがよい

○堆厩肥の施用＝苗代予定地や秋落地では七月下旬除草終了後、堆厩肥を稲の株間に施用し地力を培養・秋落防止・雑草の発生防止に役立しめる。

○除草剤二四—Dの撒布＝二・四—Dは第一回除草後撒布時期迄其のまま放置し、雑草を充分生やしてから撒布するがよい。撒布時期は七月の二十三日—三十日迄の間で稲の有効分ケツの本数が確保されてからが安全である。八月の五日以降の使用はさけること。

蔬菜

○七月に蒔くもの＝人参・葱（九条葱・越津葱）・夏蒔甘藍・抑制胡瓜（立秋・霜シラズ）抑制菜豆・小豆・大豆

○蔬菜の管理＝七月に蒔く蔬菜は土壌乾燥のため発芽が害されるから、灌水を行うと同時に覆土の上に敷ワラをする。

○採種＝トマト・胡瓜・ナス・玉葱・等自家採種を行うものの種子の乾燥は、直射光線によらないで日陰で充分乾燥するが安全である。

（長尾智代喜）

道路政策の一考察

（前号につゞく）

悪道生

要請される新道路政策

私は若いので良くわからないが、明治時代には所謂道路政策の現われと目すべき一定方針に基いた道路工事などは殆どなかつたとよんだ本がある。尤も明治維新により長い冬眠よりさめて国民の上下に、共に一変で押寄せて来た西洋文化の波に眼をみはつていたのであつた。交通機関もまた新しい型が流入して来た。たとへば「かご」から人力車・駅馬車となつて来た。よつて明治政府もこれに対すべき新しい道路政策の具体化を思いたつたに相違ないと私は思ふしかし道路関係者の一大決意にもかゝわらず道路法の立案以来三十二年目の大正八年の第四十一帝国議会で成立したそうである。

この道路法は今なお現存してある。指定府県道「府県庁所在地・師団司令部所在地・鎮守府とに通ずる路線」として認定されて軍事上第一主義の道路政策をとられ、今なおこれがあらたまれずにいる。我等が愛する祖国は打続いた永い戦争のために国力の殆んどが消耗されつくし、領土は亡くし、外地の資源地帯も失い、あらゆる生産機能はこわされて、経済の基礎は根本からひつくりかへされて来た。曽て東洋の指導者と自他共にゆるした祖国も、今や経済の自立も不可能な状態で、ある特定の国の援助によつて成り立つて来てゐる

我々が愛する祖国郷土をいやしくも外国の力の助けによらず独自の力で復興させ、国家・地方経済の運営を円滑にしなければなるまい。そのためには、あるいは人口問題・失業対策の確立・生産機能の復旧・資源の開発等についての政策がたてられなければならないであろうが、その総べてをなすのは輸送である。依つて交通機関・いや道路政策は経済復興の最大の基礎であるといつても過言でないと私は思つてゐる。交通機関中で最も基本的なものは道路である。鉄道にしても船舶にしてもその積込みまでは道路による輸送で殆どが行われる従つて経済復旧・地方新興は先づ道路の整備・拡充である。

即ち新時代の要請に応へ得る適切な新道路政策の樹立が不可決な措置である。所謂道路政策は、我が村の他の諸政策と調和したものでなければならない。我が村の豊富な鉱産・林産・農産等の資源開発には搬出輸送路の問題があり、人口の配合は開拓計画と関係して人植適地とするには先づ道路計画が必要である。然し道路政策の実行には当然財源の問題があり、この村の財政の実状を無視した政策は到底成り立ち得ない。これらの関連事項をよく調和させて始めて適切妥当な道路政策となり得るわけである。最近我が村でもこの傾向が見えて、幹線道路の建設に議会・村・炭坑等一体となつて鋭意計画の立案から実行へと進められてることを聞くことはよろこばしいことである。一日も速かに幹線道路の完備することを目標として、その実現を容易ならしめる方向に向つて善処を関係者に願ふものである。また要するに如何なる事態が起ろうとも今後の道路政策は、政治的要請を第一主義的とし飽くまでも経済第一主義に立脚し、郷土開発・産業発展・文化向上の要素を基調とし、政治的視野を広く全村的に及ぼし、道路の先行性を十分考慮の上遠大にして且つ適切なる新道路政策を樹立し、全村に統制ある有機的道路の整備を期すべきである。

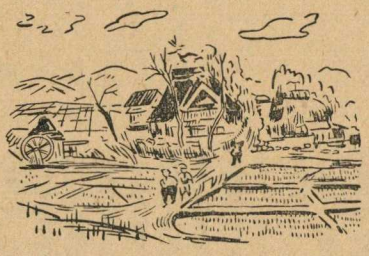
（以下次号につづく）

香川縣を視て

高津　順

五月十八日突然県経済部長名で香川県視察を指示して来た。田川地区農業改良普及事務所長からの推薦で、郡市代表として県のこの企画に不肖自分が選ばれた事を知り、身にあまる責任の重大さに一抹の不安を感じ乍らも、懸命の精進を誓い参加する県会議事堂前に於ける経済部長のお話、改良課長の挨拶を受けたまわり何物かを把握して帰らねばと深く心に期し車中の人となる。

先進地の近づくにつれて耕作方法の変り方や除草の徹底して居るのが目につく、高松に上陸して見ると態々香川県庁の方の出迎えを頂き、その方の案内で県内を一巡する事になる先ず大川郡小田村の多田栄氏の経営を見る、特に移植麦の権威者として先の天皇陛下四国御巡幸のみぎり御前講演までなした香川県第一の篤農家である。得る前に移植麦であると云ふ事を聴かされて居たので、今日労働の生産性・生産費の低減等を叫ばれて居る時、今更移植麦でもあるまいにと、実は県の真意を疑い乍ら多田氏を訪れた。氏の経営内容等は他の人の所感で云いつくされて居ると思いますので、此処では省略し経営を見ての感想を述べる事にします。



多田氏の移植麦は氏の多年の地力増術ではなくして数十年に亘る血と汗に依つて培養せられたる地力以外に何物もない事を痛切に感じさせられました。「古農の麦作りは土作り」の言を今更乍ら再考させられます。更に最も深く考えさせられた事は多田氏は長男は戦死され、一男が家業を継ぐべきだが私の身体は到底この家業に従がふ事は出来ませんと云はれて、目下予備隊に入つて居られると聴き、この老農の額に刻まれた深い皺は過去の百姓生活の結果から、のみでなくして家業を継ぐべき子供の無い事の淋しさが、より深刻ではないかと想像し、年老いて子供から去られし親の心中を想ひ、何か知ら多田氏のために熱いもののこみあげて来るを感じました。

之は独り多田氏の問題ではなくして広く日本の農村を覆いつゝある暗い陰でもあると思います。

朝は早くから夜は暗くなるまで真黒くなつて働く農民には、その勤労に対する充分なる代価が支払はれて居るであろうか、否その勤労に対して報くわれたものは一般生活者に比し極端なる粗食と疲労だけではないでせうか。此の現実はもとより農民自身の無自覚がもたらしたものとは云え、農村行政の進展の如何によつては、この様な結果を生む筈はないと思います。

（以下次号に記載）

分館だより

八幡町分館

本村唯一の商店街地域分館の特色を遺憾なく発揮し、加ふるに塀分館長の頭脳のひらめきは常に地域の緊急課題を捉へ、商店街地域の繁栄策を討議し企業組合の研究討論や珠算・簿記の講習会を開く等々真に住民の生活に直結する問題の解決に努力を続け乍らレクレーションとして、映画鑑賞の夕を催す等分館中心に八幡町将来の発展は期して待つべきものがある。

前村分館

暫く鳴かず飛ばずで環境静観中であつたが六月十日映画鑑賞会を催し、これを機会に分館の機構改革運営の具体案樹立等活溌な討論研究に依つて結論を得たので、農繁期明けから愈々本格的活動に入ることゝなつた。

畑分館

純農村分館の特色を生かし、生活に直結する農事の改良生活改善等成壮年層中心で推進し、青年部に於ては農業経済学の専門講習を毎月継続し、女子部の生花作法の講習等本村モデル分館としてふさわしい多彩な行事で、活溌な運動を続けて居る

山の手分館

鉱員住宅と接近した生活環境の調整に考慮が払われ、生活改善や衛生思想の普及徹底・育児知識の啓蒙・少年不良化防止対策としての子供会の育成等分館員の時代感覚は漸次実行期に入りつゝある。

公民館俳句大會記

方城村に於ては予ねて公民館事業の一翼として俳句に依る文化の推進を期してゐた折柄、青葉薫る六月八日をトしホトトギス同人草野駝王先生を久留米から招聘して方城中央公民館で第一回の大会を開催する運びとなつた。当日は折悪しく非常な悪天候であつたのにも拘らず、方城の俳人は申すに及ばず糸田・赤池・直方方面からも多数の参加を得、会場狭しと思はれる程の盛会裡に所期の成果を挙げることが出来たのは、荒木主事の異常な御心使ひ並に白石天留翁氏はじめ関係者一同の後援の賜と深く感謝する次第である。

草野駝王先生作句並選句

（○印特選）

一と花に二つの蝶や鬼薊　若松一芝
畦にかげ土橋にかげや菜殻焼く　赤池十夜
えん〳〵と菜殻焼きたる一夜明け　糸田葉大
新聞はいつも夜読む火取虫　一芝
妻らしや八百屋の日覆出て来るは　鳳郎

×

○花著莪に英彦僧兵の墓ならぶ　仏村
○夏帽をかぶらず行きし子のことを　鳳郎
○高々と木馬に積んで麦の秋　蔦雨
まだ先に咲く朴ありと磴のぼる　しげを
三つ伏し一つ俯く柿落花　詩童
十薬の一と葉おどらせ滴れり　仏村
草刈女蝶をしたがへ渉る　梅園
風寝してゐし間に一句得たりしと　炭舟
母屋より納屋へ麦扱ぐコード曳き　栄基
英彦に来て雨となりたる著莪の花
活けてある海芋に蠅のとまりをり
渡御の山車英彦山川を染めにけり
惜春や少しの酒に醉ひもして
紺匂ふ手甲をはめて麦刈に
鮎宿に旅の衣をぬぎ捨てて　一線
妻に傘さしかけられてトマト植う　芝山
子燕の顔いつぱいに口を開け　魁陽
はら〳〵と松の雫や葭簀茶屋　信定
町中に螢現はれ直ぐに失せ　千鶴子
でゝ虫をつけて石蕗の葉傾ける　子晃
この辺に見かけざる人ラムネ飲む　梅邨
坑出でゝ苗代寒といふことを　白茅
灯右往左往出水の堤守る　逝童
げんげ刈る太る野をたのしみに　比佐於
売れ残る物の重たし遠蛙

白石天留翁氏作句並選句

朝顔の双葉の月日子の月日　梅窓
夜半より大に降りて梅雨に入る　駝王
一燈の香焚きこもる梅雨の僧　仏村
一枚の代田の白く占めし闇　十夜
睡蓮の池うすみどりして浅く　一芝

×

蠅帳のずれしは猫の来しならん　梅窓
妻らしや八百屋の日覆出て来るは　駝王
十薬の一葉おどらせ滴れり　仏村
滝行者閻王前に一としぐさ　十夜
花著莪に英彦僧兵の墓ならぶ　一芝

選句披講後駝王先生は芭蕉の提唱した句の寂び・しをり・軽みのうち前者は既に大成された感があるが、軽みに就いては現代まで尚未完成で昭和俳句として達成の途上にある。而るに九州地方は九州弁と言ふ伝統にも依るが作られた句が重すぎると言はれてゐる。ホトトギスに拠る俳人は高浜虚子翁を嗣いだ年尾先生の意のあるところを体得し、軽みのある写生句の洗練に一段の精進寄与を共に誓ひたいと烈々たる抱負を吐露せられ、一同深い感銘を受け和気藹々の中に午後四時半散会した。

（文責興陽生）

歌

葛原生

敗戦後の混乱期に乗じて？ものすごく流行歌がはんらんし、正に胃拡腸の観がある。

虚脱した国民の唱いたい心理は必然的に「リンゴの歌」に熱狂的に表はれて以来、ズンドコ、トコトン、ヤツトンと大流行。「鐘一つ鳴らぬ日もなし」のの〻自慢や「三つの歌」は素人が日頃唱いたいと言う心理をたくみに利用したものであらう。

恐らく一流歌手があれ位に失敗したり、うまく唱えなかつたら物笑いの種になるだらうが、素人が妙な唱い方をしたり唱いそこなつたりした方が拍手されるのだから面白い。抒情歌手として有名な奥田良三氏は「日本の様に美しい言葉を持ち合せ乍らあまりにも音楽というものに没交渉な乾燥した姿は悲しい。正しく国語を語す、これが唱う事の出発点だし

昭和二十六年産米供出強制収用解決について

經済課先日来新聞・ラジオ等で御承知の事と存じますが、本村供米未納者三十一名に対し県に於て強制収用の手続が取られて居りましたが、田川地方事務所・田川警察署並に地元農業委員・地元展事組合長等絶大なる協力に依りまして強制収用一歩前に於て、円満解決を見る事が出来ました事を村当局関係者一同衷心より感謝いたして居ります。

一本道だ。

「音痴」と言うが、ステージに立つて唱う通りに台所や庭で唱つたらとんだ笑い草だ。歌はことばが自由に間違いなく使いこなせ、話せたら唖以外は誰でも立派に唱える」と言つてゐる。「美しい言葉」から発した「美しい歌」が何故大衆の中に溶けこんでいかないのだらう。

ズンドコトコトンが日本全国民に普及され口ずさまれてゐる反面「からたちの花」や「ローレライ」が一部のものの間にしか浸透してゐない現実を、日本の音楽家は強く反省しなければならないのではないか。

又私達生活そのものも「歌」に対する考へ方を一変する要もあらう。学校で習つた歌を皆で唱う様な家庭が村内に果して何軒あるだらう。

美しい言葉を使うならば国民全部で合唱出来る世界的な立派な歌が生れることを望んで止まないし、又近い将来そんな時代がきつと来ると言うことを確信したい。

此の機会に供米未納者の方へ御願いいたしたい事は、我が独立日本の食糧事情を良く御認識下さつて、本年度（昭和二十七年）も供米統制のある事を御考へ願つて極力増産に迫車をかけ、来るべき昭和二十七年度産米供出に対しては、卒先供米を完遂し、昨年の汚名を挽回し、二十六年度の様な事態を繰り返さない様切に〳〵御願いいたす次第であります。

編輯後記

△こんどこそは貧困な知能をしぼつて努力した結果は此の通り、誠に相済まぬと思つてゐます。

△七号を発刊するに当り原稿の少いのに困りました。どし〳〵御投稿の程をお願致します。

△本紙をより良く育てゝ頂く為に是非皆様のキタンない御批判をお寄せ下さい。

△猫の手も借り度い多忙な田植もすまされ皆作の一休み。さあこれから分館独自の活動に、教養の向上に努力致しましよう。

◇原稿募集◇

一、論文、随筆、創作、文芸評論何んでも建設的なもの（取捨は編集部に一任）
二、詩歌、俳句、川柳一人二首二句
三、投稿締切　毎月五日
四、投稿先　方城村公民館